

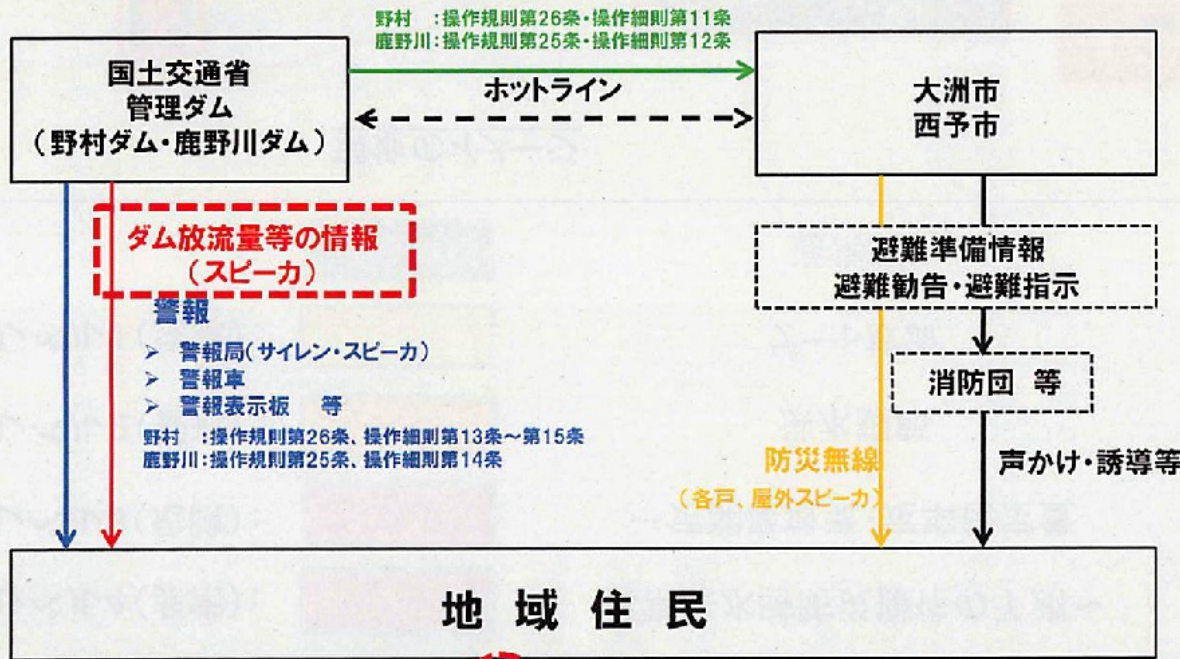
【課題】住民の適切な行動に繋げるための情報提供が必要「伝える」と「伝わった」ことに差がある可能性 ・ダム放流量などの情報をスピーカ放送・電光表示板へ表示

■ダムの放流量※等の情報をスピーカ放送等で行い、河川利用者及び地域住民に対して周知。

※ダム放流量等は、増加放流時の放流量等を住民に伝え、浸水の恐れ等について事前に提供

通知・情報提供(FAX)【関係機関:県・自治体・NHK等】

警報表示板



野村ダム情報

放流量増加中

毎秒 ●●● →

毎秒 ●●●



【ダム放流量等のアナウンス内容案文】

《放流量を増加させる場合》

野村ダム管理所からダムの操作に関するお知らせです。
現在、野村ダムに入ってきている水量は増加しているため、今後ダムから下流へ流す水量を毎秒●●m³/sから●●m³/sへ増加させる予定です。
(複数回連呼)

【課題】住民の適切な行動に繋げるための情報提供が必要「伝える」と「伝わった」ことに差がある可能性
・地元ケーブルテレビを活用したダム放流等の情報提供の充実

ケーブルテレビを活用したダム情報の提供

- 野村ダムCCTVの映像を地元ケーブルテレビから常時配信(10秒毎にスクロール)
- 鹿野川ダムの放流開始1時間前に「放流開始時刻と予定最大放流量」をケーブルテレビのチャンネル上に掲載
- 従来より実施している地元ケーブルテレビを活用した情報提供の充実

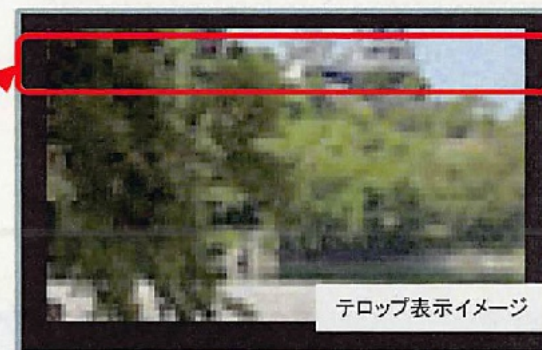
【野村ダム】CCTV映像を地元ケーブルテレビへ配信



【鹿野川ダム】地元ケーブルテレビチャンネルへのテロップ表示

【テロップ表示内容】
 (ロールスーパー ※流れるテロップ)
 鹿野川ダムより放流を開始します。
 ●月●日●時●分より 最大放流量 毎秒●●トン

チャンネル(番組)上部
 にテロップを表示

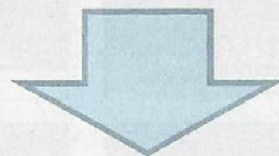


テロップ表示イメージ

放流開始1時間前に「放流開始時刻と予定最大放流量」をケーブルテレビのチャンネル上に掲載

【課題】

国・県・市のリスク情報の共有が重要



【取組】

《国・愛媛県・大洲市・西予市》

・大規模氾濫に関する減災対策協議会での共有
(対応策の進捗や災害時のリスク等)

【課題】国・県・市のリスク情報の共有が重要 ・大規模氾濫に関する減災対策協議会での共有

■大規模氾濫に関する減災協議会の場において各防災情報や被害想定、災害時に起こりうるリスク等の認識の共有を図るとともに取組の進捗状況や成果を共有。

第●回 肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会

【これまでの取組状況と今後の予定について】

関係機関の取組状況整理一覧表

情報提供に関する今後の対応(案)を追加

項目	内容	国			県			市			関係機関		
		担当	進捗状況	備考	担当	進捗状況	備考	担当	進捗状況	備考	担当	進捗状況	備考
関係機関の取組状況整理	関係機関の取組状況を整理し、共有する。												
関係機関の取組状況整理	関係機関の取組状況を整理し、共有する。												
関係機関の取組状況整理	関係機関の取組状況を整理し、共有する。												
関係機関の取組状況整理	関係機関の取組状況を整理し、共有する。												
関係機関の取組状況整理	関係機関の取組状況を整理し、共有する。												
関係機関の取組状況整理	関係機関の取組状況を整理し、共有する。												

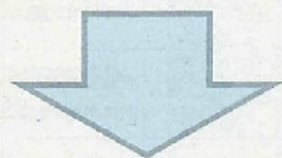


情報提供に関する今後の対応の状況報告に加え、ダム管理者からの、ダムの洪水調節機能や効果、ダムの操作やその際に提供される情報やその意味などについても説明

【水防法抜粋】
(大規模氾濫減災協議会)
第十五条の九 国土交通大臣は、第十条第二項又は第十三条第一項の規定により指定した河川について、想定最大規模降雨により当該河川が氾濫した場合の水災による被害の軽減に資する取組を総合的かつ一体的に推進するために必要な協議を行うための協議会を組織するものとする。

【課題】

ダム機能や操作が理解されていない可能性があるため、説明会等を通じて理解してもらうことが必要



【取組】

《国》

- ・ダム操作や情報等に関する説明会等の開催
- ・報道機関との意見交換会や勉強会の実施

**【課題】ダムの機能や操作が理解されていない可能性があるため、説明会等で理解してもらうことが必要
・ダム操作や情報等に関する説明会の開催 ・報道機関との意見交換会や勉強会の実施**

- 自治体と連携し、関係機関（警察・消防）、住民（地区別・自主防災組織別）及び地元の学校を対象に、現地にて意見交換や説明会を開催。
- 併せて、定期的にダムに関する情報の提供実施。



ダムの操作や情報等の説明



ダム操作室等の見学



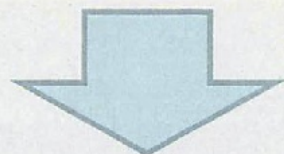
ダム堤体内設備の見学

報道機関との意見交換会や勉強会の実施

- 報道機関の担当者との定期的な意見交換会等を開催し、ダムに関する情報の受けとり方や、報道で取り扱う情報発信の方法等について意見交換する。
- 併せて、報道機関との勉強会を行い、ダム機能やダム操作への理解を深める取り組みを実施。

【課題】

将来に向けて今回出水の記録の整理や啓発が必要



【取組】

《国・愛媛県・大洲市・西予市》

・防災情報の充実・普及啓発の実施

（災害記録・浸水CG・まるごとまちごとハザードマップ）

・小中学校の防災教育の推進

【課題】将来に向けて今回出水の記録の整理や啓発が必要 ・防災情報の充実・普及啓発の実施(国、愛媛県、西予市)

■平成30年7月豪雨における災害記録とともに、防災情報の充実や普及啓発を図る。

洪水の映像記録



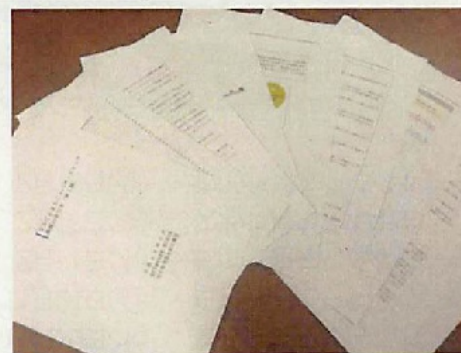
野村ダム下流の大和田橋の状況

洪水氾濫のCG作成



「映像提供:国土交通省 荒川下流河川事務所/NHK」

まるごとまちごとハザードマップの作成



まるごとまちごとハザードマップの手引き(第2版)
(国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課水防企画室)



電柱への添加型表示(実績浸水深)



【課題】将来に向けて今回出水の記録の整理や啓発が必要 ・小中学校の防災教育の推進(国・愛媛県・西予市)

大洲市では、菅田小学校をモデル校として平成30年5月に防災教育を実施した。国土交通省もダム役割や操作などを含めた説明が実施できるよう、平成31年度以降も各学校で防災教育が推進されるよう、支援を実施していく。

- 国土交通省では、「水防災意識社会再構築ビジョン」の「緊急行動計画」として平成29年6月に「防災教育の促進」が位置付けられた。
- 肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会においても「取組方針」に位置付け、平成29年よりモデル小学校での試行授業に対し、**板書計画書等の資料作成の支援**を実施し、今後**流域内の小学校等に対して防災教育の取組を展開**。

■平成30年5月には、**大洲市菅田小学校をモデル**とした試行授業を4年生社会科授業3コマで実施。

- 【1時限目】5月9日：風水害の起こりやすい国土
- 【2時限目】5月11日：風水害からくらしを守るために(グループ討議)
- 【3時限目】5月14日：自然災害に備えてできることを考えよう(グループ討議)



菅田小学校 試行授業の様子



【授業を受けた児童より】

- 菅田でも洪水があったことを初めて知った。
- 洪水が起こった時には、いろいろな人が協力してみんなを助けていることが分かった。ほくも協力したいと思った。
- わたしの家で、できていないことがあったので、帰って家族に話そうと思った。



■平成29年度に鹿野川ダムへ大洲市の小学校7校が見学を訪れ、ダムの目的を学習し、スケールの大きさを実感。

月日	学校名	学年	人数	備考
6月13日(火)	肱川小学校	3・4年生	28名	工事現場
10月30日(月)	平野小学校	6年生	10名	ダム内部・工事現場
11月 1日(水)	粟津小学校	1~4年生	51名	ダム内部・工事現場
11月 2日(木)	新谷小学校	4年生	33名	ダム内部・工事現場
11月 9日(木)	喜多小学校	4年生	94名	ダム内部・工事現場
11月24日(金)	白滝小学校		13名	工事現場
2月 1日(木)	肱川小学校	5年生	16名	工事現場
2月16日(金)	久米小学校	6年生	21名	ダム内部・工事現場
2月16日(金)	肱川小学校	1・2年生	39名	工事現場
合計			305名	



鹿野川ダム見学を訪れた小学生の様子



河川とダムが連携して防災教育を推進することで小学生等の理解を高める